

学校だより

清流

立山町立立山中央小学校

令和8年9月

主体性を育む

初秋の候、保護者並びに地域の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より本校の教育活動に温かいご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

本校では本年度4月から子供たちが自分で考え、判断し、行動する源となる「主体性」の育成に力を入れています。日頃の学校生活や地域の行事の中で見られた、子供たちの成長の姿をご紹介します。

レベルアップしたチャレンジタイム

一日の見通しを立て、自分で取り組むことを決めて実践し、振り返る時間を確保しています。この活動の基盤にあるのは、互いを思いやり、安心して過ごせる学級の環境と、落ち着いて活動できる互いの信頼感です。



獅子舞のお囃子で見た成長

「もっと練習したい!」という子供の声から休み時間を利用して、練習会を4回開催したところ、多くの子供がすべての曲をマスターしました。地域を回る本番では、大人の指示を待つのではなく、「次はこの曲を吹こう!」と自分たちで次の演目を決めて演奏する姿が見られました。「自分でできた」という自信が、自ら主体的に動く力（自走する力）につながっています。

リーダーシップの育成(6年生)

1学期からの「団活動」を通し、6年生は「どうすれば下級生を引っ張っていけるか」を試行錯誤してきました。競技だけでなく応援の工夫にも情熱を注ぎ、チーム内での自分の役割を自覚しながら本番に向けて取り組んでいます。他学年の子供たちも自分のめあてをもち運動会に臨みます。



これからの教育と、学校・家庭・地域の連携

全国の学校は、文部科学省が定める「学習指導要領」に基づいて教育を行っています。令和9年3月には新たな学習指導要領が告示される予定であり、現在、有識者で構成された中央教育審議会で、検討が進められています。新しい教育の検討においては、主に次の3つの視点が重視されています。

主体的・対話的で深い学びの実装 (Excellence)

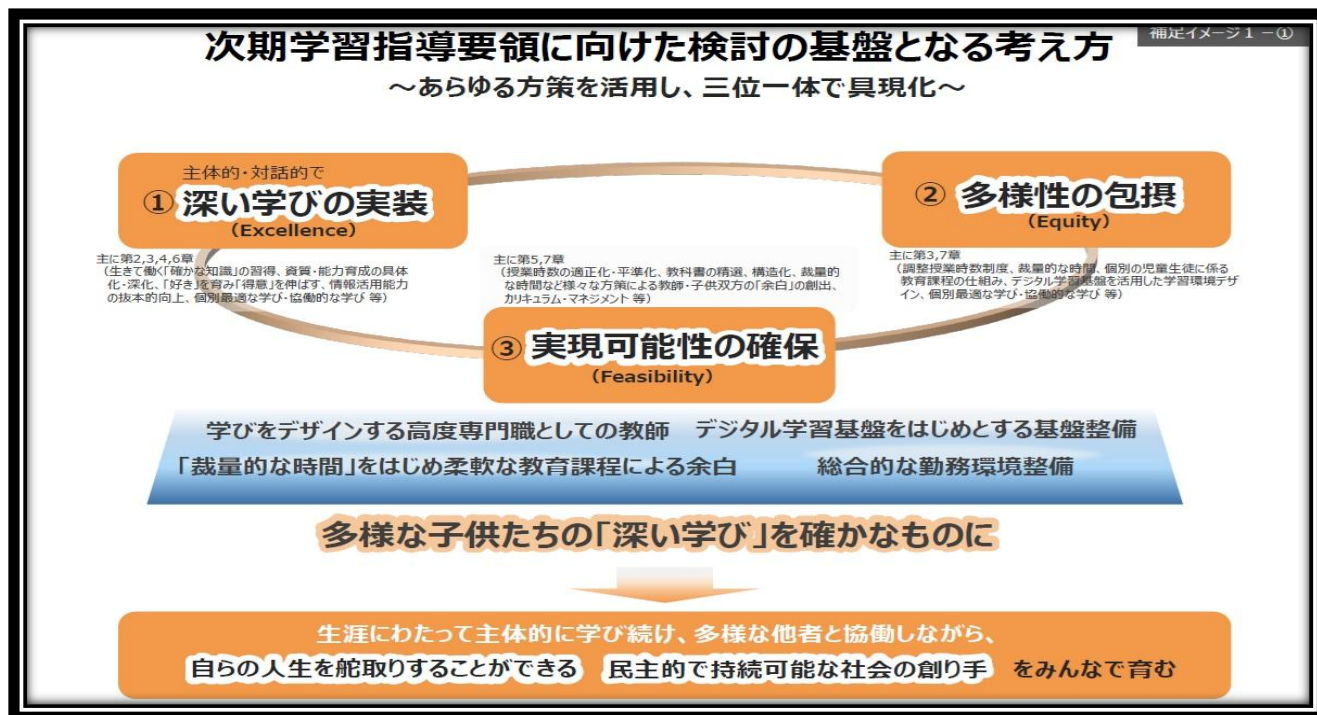
確かな知識を身に付け、「好き」や「得意」を伸ばしながら、自ら深く学ぶ力を育てます。

多様性の包摂 (Equity)

一人ひとりの違いや個性を尊重し、すべての子供が学びやすい環境を整えます。

実現可能性の確保 (Feasibility)

時間や環境の工夫、デジタル基盤の活用により、ゆとりをもった質の高い教育を実現します。



令和8年 中央教育審議会資料

教育を通して目指す子供の姿は、「生涯にわたって主体的に学び続け、多様な人々と協力しながら自らの人生を切り拓く子供」です。こうした子供の成長を実現するには、学校だけの力では限度があります。目の前にいる子供の実態に合わせ、学校・保護者・地域の皆様がしっかりと連携し、ともに試行錯誤しながら、予測不能な未来を生き抜く子供たちを育てていきたいと考えております。引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

11月、中央教育審議会の委員である上智大学教授の奈須正裕先生が来校され、ご指導をいただくことになっています。